

ヤングケアラーへの取り組みについて

1 令和 6 年度実施の実態調査の結果からの課題について

(1) 「立川市ヤングケアラー実態調査報告書（令和 7 年 9 月福祉部地域福祉課）」より一部抜粋

	小学生	中学生
調査対象	5・6 年生	1～3 年生
配布総数	2,909 人	3,795 人
回収総数（回収率）	1,939 件（66.7%）	2,442 件（64.3%）
調査期間	令和 7 年 3 月 3 日から 3 月 21 日まで	

調査結果	小学生	中学生
(1) お世話をしている家族がいる	9.6%	4.1%
（ア）お世話をしているために、自分の時間がとれない	10.8%	12.1%
（イ）お世話をしているために、宿題など勉強をする時間がない	8.6%	14.1%
（ウ）お世話をすることで、精神的に大変	12.9%	9.1%
（エ）お世話をすることで、時間的に余裕がない	12.4%	14.1%
(2) ヤングケアラーという言葉聞いたことはない	66.7%	45.7%
(3) 自分自身がヤングケアラーにあてはまると思う	2.2%	1.4%

※ア～エに関しましては、(1) で「いる」と回答した人数（小学生 186 人、中学生 99 人）を母数とした割合となります。

(2) 課題事項

- ・お世話をしていることなどにより、学校生活等で課題が表面化することがあり、教職員等による児童・生徒の実態把握が重要である。
- ・ヤングケアラー等の家庭の状況について相談したいと考えている児童・生徒がいる。
- ・ヤングケアラーの原因が複合的に絡み合っているケースがある。
- ・ヤングケアラーという言葉や概念について、全般的に認知されていない。

2 教育委員会の取り組みについて

- ・日常的な観察、年 2 回実施している心理調査や教職員向けのヤングケアラーに関する研修を継続して実施し、児童・生徒の実態把握に努める。
- ・「SOS の出し方に関する教育」や相談窓口の周知を継続して徹底する。
- ・個別ケースについては、スクールソーシャルワーカー等を活用し、地域福祉課や子ども家庭センターをはじめ、関係機関等と連携し対応する。
- ・児童・生徒におけるヤングケアラーに関する周知と理解・啓発を市長部局と連携して行う。現在、明星大学に、ヤングケアラーを事例にした漫画制作を依頼している。今後、タブレット端末や、ホームページを活用し、児童・生徒に紹介する予定である。